

**製品名: スペクトリン  $\beta$ II ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18178**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	275kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SPTBN1
別名	SPTBN1; SPTB2; Spectrin beta chain; non-erythrocytic 1; Beta-II spectrin; Fodrin beta chain; Spectrin, non-erythroid beta chain 1
遺伝子 ID	6711.0
SwissProt ID	Q01082
免疫原	抗血清はヒト SPTBN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 651-700

**背景**

スペクトリンは、アクチン架橋タンパク質であり、細胞膜とアクチン細胞骨格を連結する分子足場タンパク質です。細胞の形状決

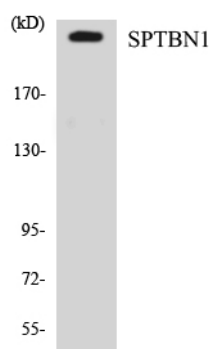
定、膜貫通タンパク質の配置、そして細胞小器官の組織化に機能しています。スペクトリンは、 $\alpha$ サブユニットと $\beta$ サブユニットからなる2つの逆平行二量体で構成されています。この遺伝子は、 $\beta$ スペクトリン遺伝子ファミリーの一員です。コードされるタンパク質は、N末端のアクチン結合ドメインと、二量体形成に関与する17個のスペクトリンリピートを含みます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2008年7月]機能: 分泌に関与すると考えられるフォドリンは、カルシウム依存的にカルモジュリンと相互作用し、膜における細胞骨格のカルシウム依存的な運動の候補となる。、PTM: アイソフォーム2はSer-8とSer-10がリン酸化される。、類似性: スペクトリンファミリーに属する。、類似性: 1つのPHドメインを含む。、類似性: 17のスペクトリン反復を含む。、類似性: 2つのCH (カルポニン相同) ドメインを含む。、細胞内局在: 新生児心筋細胞の明確な細胞内コンパートメントにおいて、ANK2と共局在する。、サブユニット: 赤血球スペクトリンと同様に、スペクトリン様タンパク質は二量体を形成することができ、さらに四量体に結合することができる。短い形態は軸索タンパク質フォダキシンに結合できない。ANK2と相互作用します。、組織特異性: アイソフォーム2は、脳、肺、腎臓に存在します (タンパク質レベル)。

## 研究分野

## 画像データ



COLO細胞ライセートのSPTBN1抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



SPTBN1抗体を使用したJurkat細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。